

人類は核と共存できない

脱原発と核兵器廃絶 国際ネットワーク

2014年4月6日(日) 福島大学 M棟22

なぜ、フィリピンやドイツは、原発の稼働を阻止し、脱原発に舵を切ることができたのでしょうか。

いまの日本は世界からどのように見え、世界はどのような状況なのでしょうか。

核分裂のエネルギーを利用し、放射線物質を放出するという点では共通している原発と核兵器。

その国際的な法的枠組や、海外の経験・視点から、脱原発、核兵器廃絶の可能性を探ります。

TIME TABLE

- | | | |
|-------|--------------------------------------|--|
| 9:15 | 開場・映像上映 | <映像上映> |
| 9:40 | 開会挨拶と問題提起 | 大久保賢一(日本反核法律家協会) |
| 9:45 | 基調講演 | 「核兵器と原発(核の"平和利用")に関わる国際的な法的枠組」山田寿則(国際法学者) |
| 11:00 | パネルディスカッション | 「脱原発、核兵器廃絶～国際ネットワーク」
司会：漆原由香(日本国際法律家協会) |
| 11:00 | 「ドイツはどうやって脱原発を実現したか」千葉 恒久(弁護士・ドイツ研究) | 著書『再生可能エネルギーが社会を変える～市民が起こしたドイツのエネルギー革命』
ドイツの脱原発に向けた市民運動など、脱原発のプロセスと背景や再生エネルギーについて |
| 11:30 | 「フィリピンの原発稼働停止の取り組みと現状」ルイシト・ブッチ・ポンゴス | (フィリピン:アジア・太平洋移民ミッション日本代表/日本国際法律家協会インターン)
市民の力で原発稼働を止めたものの、新たに十数基の建設が計画されているフィリピンの現状など |
| 12:10 | 映画上映：昼休み | |
| 13:00 | 「核兵器廃絶に向けた運動と現状」スティーブン・リーパー | (アメリカ・広島平和文化センター元理事長)
著書『2020年東京オリンピックは、人類が「核」と決別するときである(仮)』(2014年3月出版予定) 核との共存を拒否する論理と運動の在り方など |
| 13:30 | 「国際的な動きをどう作るのか」伊藤 和子 | (弁護士・ヒューマンライツ・ナウ事務局長)
国際的な動きを作り出した経験や、世界から日本はどう見られているのか、福島原発事故後の対応に関する人権の視点からの国連勧告についてなど |
| 14:00 | 議論・質疑応答 | |
| 15:00 | まとめ | 大熊政一(日本国際法律家協会) |

不毛の地WASTELAND (2009年・33分)

ロシアのチェリビンスクにあるマヤーク核施設コンビナートは、原発や原子力潜水艦の使用済み核燃料の再処理を担う。マヤークから出る大量の放射線廃棄物は、66年間直接カラチャイ湖やテチャ川に捨てられ続けてきた。その流域の汚染はけた外れで、住民の生活と健康破壊は目を覆いたいほど悲惨である。ロシア政府がソビエト時代から極秘としてきたマヤーク核施設のずさんな管理実態とその被害者たちの苦悩に迫った衝撃のドキュメンタリー。



原発内部の映像・フィリピン

(2012年・10分)

マルコス政権が23億ドルかけて完成させたバターン原発。しかし、市民の力で稼働させず、今では、中まで見学できる世界で唯一の原発。「反原発、マルコス退陣！」の市民の運動が1986年のピープルズパワーにつながってきた。燃料を入れさえすればすぐに稼働できるので、現在でも市民の運動で稼働を止めている。



「人類は核と共存でない～脱原発と核兵器廃絶国際ネットワーク」報告集 1冊 1,000円

4月6日に福島大学で行われた「第2回 原発と人権全国研究交流集会」の分科会の様子や貴重な資料をまとめた冊子です。DVD付き。

お申込書	
お名前	
ご住所 〒	報告書 冊数 冊
TEL	E-mail

お振り込み先： 郵便振込 **日本国際法律家協会 00170-1-91322**

連絡先： 〒160-0007 新宿区荒木町20-4-906 日本国際法律家協会
TEL 03-3225-1020 FAX 03-3225-1025